



こんにちは

村田 けい子 です

9月
議会報告

2021.9.24
No319
秋季号

みなさんのご意見・ご要望をお寄せ下さい。フェイスブックやっています。
移動事務所 090-9144-8534
発行/日本共産党立科町議会議員 村田桂子 立科町塩沢1483 ☎0267(56)2868

9月議会から

「PCR検査・抗原・抗体検査を無料で行うべき！」 一般質問 町「県のコロナ陽性者早期発見促進事業が始まる、検討したい」



3月議会から一貫して求め続けている「検査体制の強化」。町は常に「町独自では考えて居ない」の一点張り、コロナ感染症が流行りだしたときから、町民より「帰省したいといっている子に検査費用の助成を」「特養ホームに入所する際にも陰性証明が求められる。検査費用の補助はないのか」と多くの町民より要望が出されてきました。

医療警報・県の特別警戒レベルⅡとなり、感染の危険が一層増している今、「町独自で検査キットの無料配布や検査費用の助成制度が必要ではないか」と質問・要求しました。

町は従来の主張を繰り返しましたが、9月議会では「県により抗原検査キットの配布が行われるので研究したい」との答弁が。

議会が終わってしばらくすると有線放送で「やむをえず感染蔓延地域への往来などをした人などを対象に「抗原簡易キットを活用した陽性者の早期発見のため、町でも抗原簡易キットを配布します。」とのアナウンスが流れました。

町のホームページで確認すると、なんと申し込みは9月21～22日（水）のわずか2日間のみ。検査キット引き渡しは9月27（月）28（火）の2日間。

対象者は①蔓延地域へ往来をした人（事前申込必要）②高校3年生または妊婦は申し込み不要ですぐに受けられる としています。

感染収束が見通せない中、恒常的に検査キットを常備し、町民の求めに応じて配布できるようにすべきです。この時期だけではなく、この後も必要になります。



町外学生に町農産物配布事業さまる！

8.12 芝間議員と共同で町に申し入れを行いました。そのうちの「町外学生への支援」として、再び町特産品の配布事業が予算化、決定され実施されます。

- ・ コメ・味噌・しょうゆセット、リンゴジュースなど
- ・ 10月中旬に順次発送、一人5千円相当、予算50万円

- *以下の項目も申し入れました。
- ・ 国保加入の一人親方などに傷病手当・見舞金支給を
- ・ PCR・抗原・抗体検査などの実施
- ・ 経済対策の申請についての事務支援など。

《他の町村では》

- ・ 南牧村では昨年の12月より、検査費用の全額補助か（上限3万円・何度でも）、検査キットの配布（100人分）予算は100万円。
- ・ 小海町では個人の行った検査に対して上限3万円で何度でも補助制度を作り、この8月までに30件の利用があったとしています。
- ・ 佐久穂町では9月27日より検査キットを無料配布しますが、キットの配布終了までとなっています。

国保加入の事業主などにも傷病手当支給を

昨年6月に国保事業で初めて傷病手当金制度が導入されましたが、被用者（雇用されて給与をもらう人）のみ。給与の3分の2が療養日数に応じて支給されます。

ところが、個人事業主にはその規定がありません。コロナで仕事を休んでもその補償がないのです。ぜひ作るべきではないか、と求めました。

当町では、国保加入者で個人事業主といえば、農業・ペンションなど観光宿泊業、飲食業、大工・左官屋などの自営業など多くの住民が対象です。コロナにり患し、あるいは濃厚接触者となり休職を余儀なくされる点では被用者以上に大打撃です。傷病手当金や見舞金（辰野町では一律7万円）制度が必要。町は「事業主にはほかの助成制度がある。手当を支給すると被用者よりも手厚くなる」などの外れの答弁。町の国保加入世帯は1,117世帯。その大半が個人事業主ではないでしょうか。

制度として備えておくことが大事、安心につながります。予算としては少額で済みます。



今年の栗は大当たり！

朝のお楽しみは栗拾い。大風が吹いた日などは思った通り。

栗の木の下は落ちたイガでいっぱい。長いトングをあてがい足先で押さえてイガをこじ開け栗を取り出します。

多い日には朝昼夕方とで100コ近くにも。茹でてそのまま、栗おこわ・栗羊羹・渋皮煮と毎日楽しい栗仕事に追われています。

今週のパチリ！

「立科町の公共交通改善についての陳情・要望書」議会で全会一致で採択

立科町公共交通を考える会より出された上記の陳情・要望書は、9月9日総務経済常任委員会に付託され、審議の結果全会一致で採択され、本会議でも「異議なし」採択されました。

この陳情は、10月1日から千曲バスによる運行廃止を受けて、佐久市・立科町が共同で路線バスを確保、運行する予定。料金は200円に。ただし、平日は立科町役場前発7時台が2便、夕方は医療センター発16:00台となっており、日中はバス便がありません。また土日祝祭日は「運行無し」となっています。こうした事態を受けて、町の公共交通を抜本的に見直すことをもとめる陳情となっています。

《陳情項目》

- 1、中仙道線の平日日中、(立科町発8時台～医療センター16:10分までの間)の移動手段をデマンド交通にしてほしいこと。
 - 2、土日祝祭日の交通手段の確保をお願いしたいこと。
 - 3、町内の移動について、停留所まで行かれない人が増えていることも考慮し、従来の循環バスから「戸口から目的地までのデマンド交通制度」に移行するなど改善を。
 - 4、福祉型デマンドタクシー料金についても、600円を見直し、利用しやすい料金に。
- の4項目となっています。



議論では2について、住民だけでなく「観光客の誘致の上からも土日こそ交通の確保が重要ではないか」、との記載があり、陳情の趣旨はもっともということでも採択されました。

町にも同様の陳情が出ており、議会が採択することで、町に対して大きな意義があります。

令和2年度 決算審査より

村田の態度

- ◎認定 ・一般会計決算 ・国保特別会計
- ◎不認定
 - ・介護保険特別会計
 - ・後期高齢者医療制度決算
 - ・索道事業特別会計

◎令和2年度一般会計決算

【評価したこと】

- ①コロナ対応の町民と事業者支援策・・・10億円の国の交付金を使い、町内から1件休業者も出さなかったことから、効果があったと判断
特に一人1千円の飲食券・弁当券・事業所向け10万円の支援167事業所に。
- ②テレワーク事業...子育て中・介護中・ひきこもりなど、定量的な仕事に就けない住民にネットを使った仕事のスキルを身に付けてもらって就労に繋げ社会参加に道を開く「福祉型テレワーク」、59人のワーカーを育て、受注額も倍になり全国からの視察が絶えない状況となっている。
- ③子育て支援...一人一台のタブレット支給、児童館が休校中も開館し、子育て家庭を支えた。
- ④エレベータ新設でバリアフリー化が進んだ。

【村田の一般質問】 公共交通の改善について

- 1、中仙道線の佐久市・立科町共同運航についての課題と打開策は？
 - ①平日日中のデマンド交通の導入を
 - ②観光客対応を含め、土日祝祭日の対応は。
- 2、福祉型デマンドタクシーの料金を値下げし、毎日運行のデマンド交通に一本化を

平日日中については提案として

- ①利用者を登録制にして、タクシー料金の補助制度を作ること(御代田町は300円で1,000円分の距離が乗れる)
- ②茂田井方面を佐久市と共同利用させてもらい町内の走行料金として追加で200円払うことはどうか。
- ③町民限定のデマンドタクシーを運行し、業者への委託方式で行ったらどうか。など提案しました。町は「①に近い方式を検討中」と応えました。

2についても、「福祉型」を名乗るのであれば、障がい者は半額」の国の基準もあり、「1回600円は高すぎて利用しにくい」との町民の声もあり、スマイル交通レベルに引き下げてはと提案。

現在のスマイル交通利用の実態からバスの定時定路線は「朝夕の幹線ルート」だけとし、あとはすべてワゴン車クラスのデマンド交通にすべきではないか。と提案。

町は、今の交通体系にするときには町民からアンケートを集計しており、「7割の人が肯定的」「デマンドタクシーを町民が望んでいるのか疑問を感じている」「現行の運行計画は令和1～5年目までとなっており、その間の見直しはしない」との答え。

佐久市では、定時定路線は廃止、原則デマンドタクシーで対応。75歳以上、障がい者、妊婦、自主免許返上者は「ドアから目的地」まで料金は一律200円。

小諸市は、9月23日から朝夕の定時定路線を残し、日中は原則デマンドタクシー「小諸愛のりくん」(大人300円、障がい者など100円)にしてコールセンターを設け、町内5コースでのタクシー運行を予定していることを紹介。

【問題点の指摘】

- 1、職員の働き方について・・・4月に過労が原因かと疑われる職員死亡の事故があったが、町長はすぐに職員全体に知らせもせず原因究明にも消極的。120時間を超える残業があったと思われる事態にも労働時間を明らかにすることもなく、その後どのような改善策をとったかも不明。
- 2、佐久食肉センターの廃止をめぐる当町の取り組みが後手後手であった、イニシアチブの発揮が見られなかったのではないか。
- 3、税金、国保料金などで未納額が膨らんだが、減免制度の利用も少なく、税務だけでなく、担当課も積極的に住民の生活実態をつかんで対応することが必要ではないか、